

令和6年度 岡山県立岡山操山中学校 学校評価書

I 本校のミッション・ビジョン・具体的な学校経営目標・計画

※「令和6年度学校経営計画書」参照

II 学校自己評価

1 評価結果

「令和6年度 岡山県立岡山操山中学校 学校評価書（別紙）」参照

2 重点課題における分析・改善方策

(1) 【グローバル・リーダーの育成】

① 各学年の「未来航路プロジェクト」での探究的な学習の成果をポスターセッション等によって発表する場面に、異学年の生徒や保護者等が参加するようにしたことにより、「発表を工夫した」と回答した生徒の割合は81.8%で目標を達成した。

下級生が卒業論文集を参考にすることで視点を広げた上でテーマを設定している姿があった。【進路課・総合的な学習研究開発係】

② SOZAN 国際塾への積極的な参加を促し、活動する生徒が増えつつある。しかし、「国際塾の活動に興味がある」と回答した生徒の割合は28.3%で昨年度よりも上昇したものの目標値を下回った。国際塾の活動の具体や得られる知識や経験が何かを明確にするとともに、国際塾の活動と分かる形で校内外に発信するようにしていく。

【カリキュラム開発推進委員会】

③ 各教科で作成した「SOZAN Global Can-do List」をクラスルームに配信し、生徒と教員が内容を共有した。今年度から、閑谷研修や松柏祭において6つの資質・能力を意識させたキャリア・パスポートの活用を始めたことから、来年度は、その取組を軌道に乗せたい。【GLOBAL STUDIES・中学校】

(2) 【確かな学力の定着・授業力向上】

① 全教職員が、学校経営の重点目標の達成に向けた教科を越えた共通実践事項を意識した授業公開を行い、県外視察者や校内外・中高の教員合わせて150名を超える参観があった。互いに授業を観合う姿や、日常的に授業について語り合う教員の姿が増えており、「教科の指導内容や方法について、教員相互の研修を積極的に行っている」と回答した教職員の割合が94.1%と目標値を大幅に上回ったことから、授業改善が促進されたことがうかがえる。【教務課・職員研修係】

② 「学校は個々の生徒に対応した指導・助言をしている」と回答した生徒の割合が昨年度比+13ポイントと生徒の高評価に繋がったのも、単元を通して個別最適な学びと協働的な学びを展開している授業の推進によるものと考えられる。今後は、学力推移調査や総合学力調査の振り返りを生徒自身が行い、自分の強み弱みを把握しやすくしたような取組など、生徒の自己調整力を高めるための手立ての工夫が必要である。【進路課】【キャリアガイダンス係】

(3) 【生徒に対する総合的な支援の推進】

① 別室におけるリモート授業により登校日数が増えた生徒が複数おり、昨年度末から状態が改善された生徒が増えた。また、新たな不登校を生まないよう教職員が意識し、アンテナ高く早期に対応したことにより、長期欠席生徒数が昨年度より大幅に減少した。【指導課】

(1月末時点) 長期欠席生徒14名(うち不登校9名)

支援者対象者18名のうち状態が改善されている生徒6名

- ② 計画的な同学年・異学年ピア・サポート及びローテーション道德の実施や、毎学期の ASSESS の活用により、支持的風土の醸成に取り組んだ。人権アンケート「人を傷つける言葉を使ったり、陰で悪口を言ったりしない」と回答した生徒の割合が 94%と昨年度より+2ポイントと高い評価となった。しかし、「間違いを気にせずに自分の考えや答えを発表することができる」と回答した生徒の割合が43%と目標に達しなかったことから、校内外における自己表現の場を提供するなど、引き続き、自己肯定感を高める取組を推進する必要がある。

また、学級や学校が生徒にとって安全な場所になるよう、道德教育を通じて互いに認め合う態度を育てるとともに、情報モラル、メディアリテラシーの向上のための講演会や授業を継続的に行い、生徒の意識に根付かせたい。

いじめの認知件数は6件、うち1件は経過観察中である。

【指導課・人権教育係】【教務課・道德教育推進教師】【メディア課】

- ③ 交通委員会や交通担当の教員を中心に、登下校時の交通指導を年間通して実施でき、「自分は交通マナーを守るように努めることができている」と回答した生徒の割合は93%と目標を達成することができた。また、3年ぶりに、不審者対応の職員研修を開催し、過去に実際にあった事件を取り上げながら、教職員間で共通理解を図ったり、各教室の防犯ブザーを点検したりした。

【安全管理課】【指導課・交通指導係】

(4) 【開かれた学校づくりの推進】

- ① 今年度、さくら連絡網を活用しアンケートを実施したところ、保護者の回答数を291（昨年度比+95）と、大幅に増加させることができた。また、今年度から始めた Facebook・Instagram において各担当者が投稿する件数が増え、フォロワー数も伸びてきている。今後は、更にホームページを刷新するとともに、SNSの周知を図り、生徒の活躍を伝える場や機会を積極的に確保していきたい。

【教育評価係】【総務課】【メディア課】

- ② 外部での学校説明会に積極的に出向いたり、SOZAN 国際塾による学習支援ボランティアなどの社会貢献活動等を積極的に実施したり、中学校授業公開で選択授業のコミュニケーションやポスターセッション等を公開したりするなど、本校の特色ある教育活動を積極的に広報したことにより、令和7年度の入学者選抜の倍率が3倍を超えた。【総務課・広報活動係】

- ③ 健康教育講演会を全学年で実施するとともに、今年度初めて中高の保健委員会が合同で保健学習講座を開催でき、心身の健康についての啓発ができた。

【安全管理課・指導課】

(5) 【組織の活性化・業務の効率化の推進】

- ① 学校教育目標の実現に向けたアクションプランを作成し、全教職員で今年度の重点について共有した。重点を共有したことにより、教員研修等を計画的に実施できた。また、会議の設定時間を変更したり、テストの在り方を検討したりするなど、これまでの取組を振り返りながら、改善できる取組は年度途中であっても試行しながら改善を図った。各自が担当の課・学年団の業務のみならず、他の課・学年、そして全体に目を配ることにより、業務の統一等の精選を図り、働き方の効率化アップを目指す。【総務課】

- ② 大会等の前を除き、部活動休養日として原則、平日は水曜日、休日は日曜日を設定し、ガイドラインに則した活動ができている。SOZAN 国際塾や部活動の大会等の引率に係る業務については、可能な限り勤務の振替の取得を促進した。【指導課】

Ⅲ 学校関係者評価

1 委員名

- | | |
|-------|-----------------------------|
| 坂入 信也 | (岡山大学キャリア開発センター教授) |
| 劉 耕助 | (ベネッセホールディングス中四国支社 学校事業責任者) |
| 渡部 義仁 | (株式会社太陽堂 代表取締役) |
| 服部 和博 | (原尾島原町内会長、宇野学区連合町内会長) |
| 難波 愛 | (本校PTA副会長) |

2 学校関係者評価結果

(1) 学校の重点目標や自己評価項目等の方法・内容

- さくら連絡網を活用した学校自己評価アンケートの実施により保護者の回答数が291と大幅に伸びたのは成果である。その数値に基づき評価・分析できたことは評価でき、自己評価が適切に行われている。
- 昨年度からアンケート項目を精選したのはよい。SOZAN 国際塾に係るアンケート結果の数値は低いが、学校の取組を見ると低いから課題があるとは言えないのではないかと。更に問い方を工夫する必要がある。
- 夏休みの学習支援ボランティアや12月の宇野学区防災訓練等、SOZAN 国際塾での社会貢献活動は大変助かっており、評価できる。

(2) 進捗状況を踏まえた実際の取組・今後の改善方策等

- さくら連絡網・Classroom等の活用は保護者も助かっている。Instagramも学校の活動がよく分かってよい。日常的に学校行事が載っているのもよい。保護者アンケートで「わからない」との回答割合を改善する上でも、保護者が必要な情報をタイムリーに得られるよう整理する必要がある。
- 評価項目「未来航路の活動を通して、将来について考えるようになっている。」で低い評価となっているが、今の大学生でも将来が見えていない現状がある。中学校2年生の未来航路学年発表での姿は素晴らしかったので、数値に囚われすぎず、今の取組を続けていただきたい。
- 評価項目「自己の教養を深めたり、各教科・未来航路の学習を進めたりするために図書館を利用している。」で昨年度に引き続き低い評価となっていることが気になる。インターネットのほうが検索は早いですが、必ずしも正しいとは限らないという現実がある。そういった意味でも書籍は大切であることや、活字の意義を丁寧に伝えてほしい。また、自分の興味のあることを探すだけでなく、その周りの情報を捉える力を身に付けられるようにしてほしい。

IV 学校評価を踏まえた今後の方向性

1 来年度の重点取組

(1) 【グローバル・リーダーの育成】

- ① 未来航路プロジェクトにおいて、将来の自分のなりたい姿が描けるような声掛けや仕掛けを講じるとともに、特別活動等においてもキャリア・パスポートを活用し、6つの育成したい資質・能力を意識させ、自ら自分の力を高めようとする態度を育てる。
- ② SOZAN 国際塾の活動で得られる知識や経験等が何かを明確にするとともに、SOZAN 国際塾の活動であることが分かるよう校内外に発信することで、積極的かつ主体的に挑戦する生徒を増やす。

(2) 【確かな学力の定着・授業力向上】

- ① 引き続き、全教職員が、学校経営の重点目標の達成に向けた教科を越えた共通実践事項を意識した授業公開・相互参観を通じた授業改善に取り組み、生徒の学力向上につなげる。
- ② 年に複数回実施する学力推移調査や生活実態調査等を活用し、生徒自身に振り返らせることで、自分の伸び実感させ、強み弱みを把握しやすくするなど、生徒の自己調整力を高めるための手立ての工夫を行う。
- ③ 各教科や未来航路プロジェクトでの学習を進める際に、書籍の活用の意義を伝え、図書館の利用を促進する。

(3) 【生徒に対する総合的な支援の推進】

- ① 学級や学校が生徒にとって安全な場所になるよう、ピア・サポートやローテーション道德の実施により、共感的人間関係と支持的風土の醸成を重視した学級・学校風土づくりを推進するとともに、校内外における自己表現の場を提供するなど、自己肯定感・自己有用感の高揚を図る取組を推進する。
- ② 情報モラル、メディアリテラシーの向上のための講演会や授業を継続的に行い、生徒の意識に人権意識を根付かせる。
- ③ ASSESS の結果などを分析・活用しながら、生徒一人一人の状態や生徒間で起こっている状況等を把握しながら、気になる生徒の早期発見・早期対応につなげるとともに、引き続き S C、S S W や外部専門機関と連携をとりながら、生徒支援体制の整備や迅速かつ適切な対応を一層推進する。

(4) 【開かれた学校づくりの推進】

- ① 学校自己評価アンケートの結果分析を踏まえ、次年度の取組の改善に活かす。
- ② さくら連絡網等を可能な限り活用し、保護者等への連絡を行うとともに、ホームページを刷新し、保護者が必要な情報をタイムリーに得られるよう整理する。また、SNS の周知を図るとともに一層活用し、生徒の活躍を伝える場や機会を積極的に確保する。

(5) 【組織の活性化・業務の効率化の推進】

- ① 本校に求められる教育の質を維持しながら、学校行事や業務の内容の精選・見直しを行う。
- ② 学校経営アクションプランや学校評価・自己目標シートを連動させ、ツールとして活用しながら、目標の達成に向けた業務の改善に生かす。
- ③ ミライムの活用により勤務実態を把握し、超過勤務の解消につなげる。